



MEDICAL

医 療

人間ドックとは？



人間ドックとは、自覚症状の有無に関係なく定期的に、身体各部位の検査を受けることであり、普段気がつきにくい疾患や臓器の異常、または健康度などをチェックできる。中でも、社会に蔓延する生活習慣病（肥満・糖尿病・高脂血症・高血圧）の早期発見へとつながる。人間の身体はある年齢に達すると老化が始まり、長年の誤った生活習慣、社会環境などが生活習慣病を誘発をする。時には、働き盛りの人々に、生活習慣病が誘因となった心筋梗塞や脳内出血など生命に関わるような事態が突然襲う

こともあり、昔から社会的に問題視されていた。このような社会的背景を受けて生まれたものが人間ドックである。昭和9年に、現在の東大第3病院で2人の政治家の為に行われた精密な健康診断が、一般的な健康診断と意を画する精密検査だったことから、やがてメディアにより昭和29年に『人間ドック』と名付けられ、日本社会へ浸透していくこととなった。

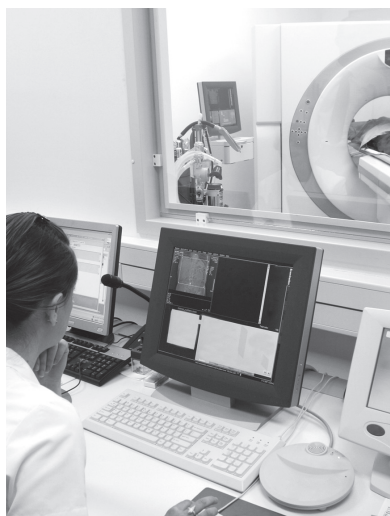
軸とするアメリカでは、個人の健康管理も個人に委ねられている。しかも、保険会社はこうした健康診断や検査に対し、消極的なのが現状と言える。そのため、必然的に検査料も個人負担となり、一般の人々に必要であるはずの人間ドックは遠い存在になってしまうのである。

アメリカにおける人間ドック

アメリカは世界第一の医療先進国だが、個人の健康度を綿密にチェックする『人間ドック』はアメリカ社会には意外と浸透していないのが現状である。一般的な健康診断 (Annual Checkup / Medical Checkup) は存在するが、人間ドックと比べると、とても簡潔なものである。こうした状況の裏には、日本と大きく異なるアメリカの社会的背景が大きく関与している。アメリカでは企業のトップが検査を受けることはあっても、会社そのものが個人の検査を奨励することはほとんどない。個人主義を

個人尊重型の人間ドック

日本では「健診は30歳を過ぎたら年に1回」と言われている。しかし、多様化する日々の環境や複雑化する疾患などを考慮すると、年齢と性別だけで健診内容を決定することはできない。例えば同じ35歳の男性でも、喫煙歴や家族歴で必要となる検査は異なる。アメリカで生活する日本人は、糖分、脂肪分過多の食事の摂取、車社会からくる運動不足、異文化圏でのストレスなどのため、生活習慣病へのリスクが高く、注意が必要と言える。一般的に、症状がないことが健康であると誤解され、病気となって初めて、健康という意味を考えている人が多い。仕事な



INSURANCE

VISA

5.5 PENSION PLAN

MEDICAL

JOB

EDUCATION

LIVING

MONET

TRAVEL

LAW & SAFETY

SAMPLE LETTER

ど日々の忙しさに追われ、自発的には病院へ足を運べないという理由もある。しかし、人間ドックの最大の目的である「生活習慣病の早期発見」を考えるならば、あらゆる人々が個人の条件に見合った適切な検査を担当医師のアドバイスのもと、受診されることを奨励する。

人間ドックで発見される典型的病気とは？

人間ドックの最大の目的である生活習慣病発見の鍵となるのが、受診者の社会的背景、病歴、そして家族歴である。これらはその人が将来どのような発病因子を持ち合わせているか、その可能性を探る上でも重要と言える。その他にも、男性であれば大腸ガンや前立腺の病気、女性であれば乳ガンや子宮の病気などがあげられる。

病気は、初期段階で発見され、その後適切な処置が施されれば完全回復も可能。特に大腸ガンや、女性なら乳ガンや子宮頸ガンなどはその典型であり、早めの検査が病気の早期発見となる。

個人に見合う健診メニュー

性別や年齢にこだわることなく受診できるのが人間ドックの魅力の一つである。検査項目は細分化されており、個人に見合ったプランを作成できる。例えば、マンハッタン・ウェルネス・メディカルでは基本的な検査項目の健診、日本の労働安全衛生法で定められた（法定健診）、さらに詳しい検査を含めた健康診断パッケージを用意し、さらにオプションとして、婦人科の健診や骨密度など検査、消化器内視鏡検査、循環器内科健診の追加も可能である。

小児用の健診では、アメリカで義務づけられた検査、推薦項目、および日本の学校保険法に準じた健診を年齢別に用意している。

人間ドックを受ける

生活習慣病が蔓延する現代における人間ドックの重要性を述べてきたが、いざ、受診となると、費用の問題がでてくる。前述のとおり、人間ドックをはじめとした健康診断は保険が適用されないことが多い。成人が必要とされる一般的標準健診1回にかかる費用はおよそ700ドル前後。企業によっては、健診料の一部負担などもあるようだが、個人負担となる場合は自分に合ったプランを相談するとよい。

申し込みから結果判明までの流れ

（マンハッタン・ウェルネス・メディカルの場合）

- 健診の申し込み
 - ↓
 - 健診前（健診開始12時間前から水以外の飲食を停止）
 - ↓
 - 健診日
（検査の種類によるが、約半日必要。）
 - ↓
 - 検査結果
病院から検査の報告書が健診日から約2～3週間後に通知される。必要に応じて、医師より精密検査や再検査および治療の指示がある。
- 【検査の流れの一例】**
- 尿検査、尿沈査
 - ↓
 - 着替え
 - ↓
 - 身体測定／血圧

- ↓
- 肺機能検査
- ↓
- 心電図
- ↓
- 視力／色神
- ↓
- 聴力検査
- ↓
- 総合血液検査
血球算定／生化学検査／その他検査項目。
- ↓
- 性別・年齢別にあった検査
 - ・ 男性／女性腫瘍マーカー（CEA／AFP／PSA／CA125^{*1}）
 - ・ ヘリコバクターピロリ菌^{*2}
 - ・ グリコヘモグロビン^{*3}
 - ・ 糖負荷試験^{*4}
- ↓
- 胸部X線／消化器X線／超音波／胃、S字結腸内視鏡
- ↓
- 問診・診察・保健指導

上記以外にも、早期発見を目的として、女性にはガンを含む婦人科系疾患のための子宮細胞診・内診、乳ガンにはマンモグラム、肺ガンのリスクの高い喫煙者には喀痰検査・肺活量検査、また高血圧、高脂血症の病歴、家族歴があれば循環器内科のパッケージの組み合わせも可能。

- *1 PSA/CA125＝PSAは男性のみ。
- *2 ヘリコバクターピロリ菌＝胃の中にある細菌の検査
- *3 グリコヘモグロビン＝糖尿病を発見する検査
- *4 糖負荷試験＝同じく糖尿病を発見する検査

マンハッタン・ウェルネス・メディカル
中釜知則医師

